

なぜ生協がまちづくりをするのか

～つながりから生まれる新しい可能性を探ろう～

日時：2019年7月11日（木）10：30～13：00

会場：東京都生協連 3階会議室 参加者：61名（事務局含む）

主催：まちづくり活動学習交流会実行委員会

《参加生協》12生協

コープみらい・コープみらいくらしの助け合いの会（プチトマトの会）・パルシステム東京
東都生協・東都生協くらしの助け合いの会ほっとはんど・八王子保健生協・東京ふれあい医療生協・東京ほくと医療生協・北多摩中央医療生協・三多摩医療生協・住宅生協・東京都生協連

生協間だけでなく、他団体とのつながりも視野に入れ「誰もが安心して暮らし続けられるまちづくり」がさらにすすむよう、これまで別々に開催していた「まちづくり活動学習交流会」と「福祉助け合い活動交流会」を統合し開催いたしました。



司会

パルシステム東京理事
見生和美さん

「生協がなぜまちづくり活動をするのか」



東京都生協連
秋山専務理事

1. 生協は地域にどう関わるか？ 2つのアプローチ

生協は3,200台の配送トラックなどのインフラを活用して地域の見守り活動などで貢献できる。日常の買い物支援などにも応えていける生協へ。組合員として生協に関わることを通じて、人と人とのつながりをつくり、それを活かした地域社会づくりは生協にしかできない取り組み。地域包括支援センターの存在を教えてあげるだけでも大きな力になる。

2. 地域の課題は地域をつくる皆さんと一緒に

私たちがまだまだ知らない、気がついていない課題が地域にはたくさんある。自治体、社会福祉協議会、専門的な知識を持っている方、団体と一緒に知恵を寄せ合う。また生協のことを知ってもらう活動をすすめる。

3. 生協がなぜまちづくり活動をするのか？

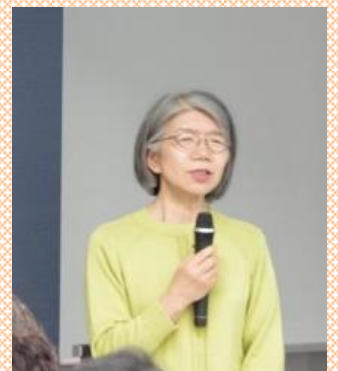
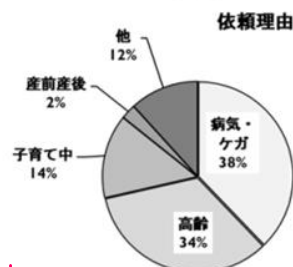
生協は、そもそもまちづくり活動・地域社会づくりをするために生まれたもの。なぜもっとまちづくり活動に取り組まないのかということの方が今求められている。明日につながる活動を。

「東都生協くらしの助け合いの会ほっとはんどの活動について」

組合員同士の対等・平等な関係の有償の助け合い活動として、1999年4月に設立された。会員767人のうち援助する会員は183人で、そのうち男性会員は3人。2018年度の活動件数は119件で高齢者からの依頼が半数以上を占めており、独り暮らしの方の見守りにつながっている。

最近気になっているのは・・・「困難事例への対応」

他では引き受けてくれなかった心気症の方の対応や、食事づくり、認知症の方の話し相手など、家族と連携して行っている。生協の助け合いだからという安心感を持って頼ってくれる。困難事例でも話し合って解決できると感じている。



東都生協くらしの助け合いの会
ほっとはんど代表幹事
佐藤けさ穂さん

「生協で取り組む地域共生社会づくり」

「地域共生社会」そして「やらされる福祉」から「やる福祉」へ

元々は自然界で自然発生的に生まれていたものだが、現代の社会においては誰かが人工的に作っていく事がようになってきている。そのひとつに介護の社会化、子育ての社会化など「つながりづくりの社会化」がある。互助の組織である生協の理念と地域共生社会の考え方の大部分は共通している。地域共生社会づくりに関わっていく中で、「やらされる福祉」から「やる福祉」への考え方の転換が必要。

「私たちにできること」

現代では、かつてのように家族での支えあいも弱くなり、日本のセーフティネットの構造からも取りこぼされている人や、社会的に孤立している状態に陥っている人など「社会の中で生きづらさ」を感じている人が増えてきていることが、なぜまちづくりに取り組むかの「なぜ」につながっている。「社会の中で生きづらさ」を感じている人の多くはカレンダーが来月も再来月も真っ白。カレンダーを少しでも埋めてあげられる、顔が浮かぶ相手がいるようにしてあげることがわたしたちにできることではないか。



首都大学東京人文社会学部
人間社会学科准教授
室田信一さん



まちづくりの活動トピックス・コープみらい、
東都生協の助け合いの会の活動パネルを展示

ワークショップ



2030年には、東京の人口、世帯数はどんな風に変化しているのか、地域生活研究所の三浦一浩さんにデータで解説していただき、参加者みんなでタイムスリップして考えるワークショップを行いました。

《話し合ったテーマ》

「考えられるワーストシナリオを出し合おう」

「こうりたいベストシナリオを出し合おう」

「今、何をしたらベストシナリオに近づくのか」

「そのためにつながりを持ちたい団体は？」

ワーストシナリオでは「生協は無い」というのもあったり、ベストシナリオの中には「就職したい企業 NO1 は生協」というのもありました。どうしたらベストに近づくのかを参加者どうして熱心に意見交換していました。

アンケートより (抜粋)

- ・室田先生は、日頃意識していないところを明確に言葉にしてくださったように思いました。自分に対する「なぜ」が解消され、すっきりしました。
- ・そもそも生協は困りごとを解決するために生まれた助け合いの組織であるから。という初心に戻る事、再確認ができました。
- ・組合員活動をすすめる上でも大切な考え方が学べた。ブロック委員にも学習会としてやってほしい。
- ・新しい気づきを得ることができたワークショップで有意義でした。このような機会にもっと参加したい。